

令和7年度政務活動費収支報告書

会 派 名 秀真の和

1 収 入
政務活動費 150,000 円

2 支 出 157,337 円

(単位：円)

項 目	金 額	備 考
調 査 研 究 費	5,500 円	モバイル端末レンタルサービス通信費
研 修 費	50,720	研修受講料・旅費
広 報 費	101,117 円	会派ニュース印刷・折り込み費
広 聴 費		
要請・陳情活動費		
会 議 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
人 件 費		
事 務 所 費		

注 備考欄には、主たる収支の内容を記載する。

3 残 額 0 円

使途項目別一覧表

使途項目名	調査研究 費
--------------	--------

年月日	支出内容	支出額	備考	整理番号
R7年9月25日	モバイル端末レンタルサービス通信自己負担金	3,300 円		1
R7年10月8日	モバイル端末レンタルサービス通信自己負担金	2,200 円		2
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
計		5,500 円		

支 出 伝 票

使 途 項 目	調 査 研 究 費 費	整 理 番 号	1
支 出 金 額	3,300 円		
支 出 年 月 日	R7年9月25日		
使 途 内 容	モバイル端末レンタルサービス通信自己負担金		
領収書・その他証拠書類 <input checked="" type="checkbox"/> 裏面添付 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> 7月~9月分 11.00円×3ヶ月=3,300円 </div>			
支 出 先	いなべ市		
按 分 率 等			
備 考 欄			

支 出 伝 票

使 途 項 目	調 査 研 究 費 費	整 理 番 号	2
支 出 金 額	2,200 円		
支 出 年 月 日	R7年10月8日		
使 途 内 容	モバイル端末レンタルサービス通信自己負担金		
領収書・その他証拠書類 <input checked="" type="checkbox"/> 裏面添付 <p style="text-align: center;">10月~11月分 1,100円×2ヶ月分=2,200円</p>			
支 出 先	いなべ市		
按 分 率 等			
備 考 欄			

使途項目別一覧表

使途項目名	研修 費
-------	------

年月日	支出内容	支出額	備考	整理番号
2025/7/1	こどもアドボカシー専門講座受講料	12,000 円		1
2025/8/5	こどもアドボカシー学会研究大会 in 愛知	6,000 円		2
2025/9/4	仁愛大学シンポジウム旅費	4,000 円		3
2025/9/14	教育講演会「よりよくの追求」旅費	23,220 円		4
2025/10/10	地方議員の生活困窮者対策	5,500 円		5
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
計		50,720 円		

支 出 伝 票

使 途 項 目	研 修 費 費	整 理 番 号	1
支 出 金 額	12,000 円		
支 出 年 月 日	R7年7月1日		
使 途 内 容	こどもアドボカシー専門講座 受講料		
領収書・その他証拠書類 <input checked="" type="checkbox"/> 裏面添付			
支 出 先	子どもアドボカシーセンターME		
按 分 率 等			
備 考 欄			

視察研修報告書

令和7年8月17日

日時	令和7年6月29日(日)～令和7年8月17日(日) 全10回(詳細は資料参照)
氏名	篠原史紀
視察名	子どもアドボカシー
視察先	オンライン
説明者	熊本学園大学教授 堀正嗣氏など10人
目的・内容	<p>政府は、歯止めがかからない少子化に危機感を募らせ、対策強化のために、こども家庭庁を発足。こどもの権利擁護のため、こどもの意見表明を重視してきた。その潮流の中、2022年6月の児童福祉法の改正により、2024年から「児童の意見聴取等の仕組みの整備」が実施されることとなった。これによって、児童養護施設や一時保護施設の子どもたちへの措置を検討する際、こどもの意見を聞くことが盛り込まれた。</p> <p>アドボカシーという言葉は、「社会的に弱い立場にある方の権利を守るため、(支援者が)代弁する」という意味合いで使われており、支援者は「アドボケイト」と呼ばれる。子どもアドボカシーとは、大人や社会に対して声を上げにくかったり、声が拾われにくかったりする子どものためのアドボカシーである。</p> <p>法的に、子どもアドボカシーが導入されることとなったが、全国的に人材が足りず、また、児童相談所や児童擁護施設などでの理解もまだまだ普及しているとは言い難い。その現状の中、国内では専門家による養成講座が多数行われている。</p> <p>今回、専門講座に参加し、専門家、児童相談所・児童擁護施設・学校関係者などから講義を受け、濃密な意見交換をすることで、今後、いなべ市が拡充していきだるう子ども、子育て政策の議論を充実するための参考とする。</p>

<p>成果・所感</p>	<p>全 10 回の受講スタイルは、講師の事前動画を視聴しレポートを提出。講義当日は、まず、事前レポートを基にグループディスカッションをし、講義を受け、講義後レポートを提出するというスタイル。以下に、事前レポートと講義後レポートから抜粋する。</p> <p>●7月 21 日 アドボカシー専門講座 受講後レポート</p> <p>7月 19 日の山口有紗氏（子どものこころ専門医）の講義「社会的擁護を必要とする子どもの心の理解」でのアタッチメント、ウェルビーイングのエコロジカルモデルという心理学的な概念を学んだ上で、当事者（子どもの頃に虐待を受け社会的養護を受けて育った）の歩みをお聴きすると、アドボケイトが有していなければいけない距離感や冷静さ、傾聴する姿勢の大切さがさらに理解できた。「アドボケイトの存在と役割がこどもの人生をいかに左右するか」「時には虐待せざるを得なかった大人を救うことにも繋がる」ということを理解できたことにより、アドボカシーの必要性を世の中に強く訴えていきたいと思う。</p> <p>●7月 28 日 里親制度とアドボカシー 受講後レポート</p> <p>ファミリーホームで育った講師だからこそ「家庭で擁護される里子とその周辺の家族との関係性への視点」が興味深かった。施設から里親へシフトしていくことが望ましいとはいえ、フォーマルアドボカシーが主流では、施設から離れることで様々な専門家が家庭を訪問するという乱雑さがある。施設よりも、さらに大人の事情が優先されるのかもしれない。児相の職員からの視点では里親との訪問日時の調整でかなり疲弊し、さらに、訪問と傾聴は機械的にならざるを得ない。故に独立アドボケイトの役割が仕組みを変えられる可能性を有する。</p> <p>上記のような講義を重ね、グループディスカッションでは、児童相談所、児童養護施設、こども食堂、こどもの居場所の関係者、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど様々な方々と意見交換を重ねた。</p> <p>議会での質問や質疑では決して聴けない、生の現場の声をたくさん聴くことができ、具体的な政策的課題についても議論することができた。</p>
--------------	---

資料別添付

支 出 伝 票

使 途 項 目	研 修 費 費	整 理 番 号	2
支 出 金 額	6,000 円		
支 出 年 月 日	R7年8月5日		
使 途 内 容	第4回 子どもアドボカシー学会研究大会 in 愛知 参加料		
領収書・その他証拠書類 <input checked="" type="checkbox"/> 裏面添付			
支 出 先	子どもアドボカシー学会		
按 分 率 等			
備 考 欄			

視察研修報告書

令和7年8月25日

日 時	令和7年8月23日13:00~19:00(情報交換会も参加) 令和7年8月24日9:15~15:45
氏 名	篠原史紀
視察名	子どもアドボカシー学会研究大会 in 愛知
視察先	金城学院大学 E1棟 101・102
説明者	東京大学先端科学技術研究センター教授 熊谷 晋一郎氏ほか
目的・内容	<p>進行する少子化の中、こどもや子育て世代への政策強化は、国だけでなく基礎自治体においても喫緊の課題である。</p> <p>そうした中、子ども家庭庁が発足され、日本のこどもの育ち、子育て環境などに関して多角的な議論が行われている。近年、いなべ市でも、子ども・子育て政策強化が実施され、大安庁舎を含むエリアを新たな子ども・子育て拠点、自然体験ができるエリアの整備が決められている。</p> <p>一方、「子ども・子育て実施計画」策定を前に子育て世代などを対象に行われていたアンケートを観ると、行政が実施している子ども・子育てサービスの利用率は大変低く、行政サービスと当事者ニーズの何らかの乖離が見られる。</p> <p>そうした中、「子どもや若者の意見表明を支援する、子どもアドボカシーの導入は、そうした乖離を埋め、より価値ある行政サービスに繋がるのではないか」という仮説を立て、今後の子ども・子育て政策を強化するための参考としたいというのが、全国から専門家や実践者が集まる当研究大会へ参加した目的である。</p>

成果・所感

(1) 23日の自由研究報告

・長年、チャイルドラインなどの活動を自ら行い、国内の教育や子どもの育ちなどを研究されてきた早稲田大学教授の喜多明人氏の日本の小・中学生の学校での主権者・民主主義教育の変遷についての研究報告を聴く。いなべ市の新たな教育について議論をする際のキーワードの1つは「子どもの主体性」であることから、こどもや教職員、保護者の意識を洞察する上で大変参考になった。この報告を参考に、令和7年9月議会の一般質問（児童会・生徒会活動に関して）をした。

(2) 23日のユース企画

社会的養護を受けて育った当事者で、現在、同じ境遇にあるこどもたちの支援をしている若者たちによる意見交換。（以下内容を抜粋）

・すべての子どもとは？権利とは？：歴史から条約などを辿っていただき、問題提起。

・若者の居場所「ユースセンター」の視察報告と、ポピュレーションアプローチとしてのアドボカシーの可能性について課題提起。

・社会的養護経験と当事者活動IFCAによる、ユースのリーダーシップの醸成について紹介。

・一般社団法人JUNTOSでの、外国籍の子どもたちへのダイナミックな活動の手法を紹介。

（感想）社会的養護の現場での子どもアドボカシーは進んで来たが、学校、ユースセンターなどを含むすべての子どもへのアプローチについては、まだまだ大きな課題がある。特定なこどもの居場所だけでなく、こどもの日常にアドボカシーが必要で、それが、社会全体の意識の変化に繋がる。

(3) 24日の特別報告

特別報告『会議支援アドボカシーとは？～英国視察と日本の新たな取り組みから』。こどもアドボカシーやコミッショナー制度など、先進国である英国の現地視察に関して詳細なレポートが聴けた。そもそも、こどもの権利に関する意識が日本とは大きく異なる。日本も、こどもの権利条約を採択してはいるが、権利擁護については、国連から何度も勧告を受けている。社会全体が意識を変えるように、基礎自治体も積極的にこどもの権利に関して周知すべき。

また、広島、名古屋、和歌山の児童相談所、アドボケイトによる子どもの会議参加や児童相談所の会議支援アドボカシーの特別報告もあった。まだ始まったばかりの制度であり、自治体や施設により意識や運用がバラバラである。中には、こどものための制度なのに、大人の都合中心で運用されている場合もあり、動向を注視しながら、いなべ市に導入を促したい。（令和7年9月議会の一般質問で提案）

資料別添付

支 出 伝 票

使 途 項 目	研 修 費 費	整 理 番 号	3
支 出 金 額	4,000 円		
支 出 年 月 日	R7年9月4日		
使 途 内 容	仁愛大学シンポジウム 旅費		
領収書・その他証拠書類 <input checked="" type="checkbox"/> 裏面添付 <p style="text-align: center;">9/4 米原～福井 往復 2,000円×2=4,000円</p>			
支 出 先	株式会社ハピラインふくい、西日本旅客鉄道株式会社		
按 分 率 等			
備 考 欄			

視察研修旅費明細書

会 派 名	秀真の和	代表者印	
氏 名	篠原史紀	経理責任者	
視 察 日	R7年9月4日	使途項目	
視 察 内 容	仁愛大学シンポジウム	整理番号	3
視 察 先	福井市にぎわい交流施設ハピリンホール		

月日	出発地	到着地	宿泊地	電車賃		宿泊料		合 計
				路程	額	夜数	額	
R7年 9月4日	米原市	福井市		米原～福井	2,000			2,000
R7年 9月4日	福井市	米原市		福井～米原	2,000			2,000
計					4,000			4,000

交通費	4,000 円
宿泊費	円
合 計	4,000 円

視察研修報告書

令和7年9月5日

日 時	令和7年9月4日
氏 名	篠原史紀
視察名	仁愛大学学部新設記念シンポジウム
視察先	福井市にぎわい交流施設ハピリンホール
説明者	仁愛大学ビジネスコミュニケーション学部長・教授 中山健氏ほか
目的・内容	<p>福井県と連携し、地域の活性化及び地域の担い手の人材育成を念頭に開校した私立大学の仁愛大学が、新たにビジネスコミュニケーション学部を新設。今までの保育人材の育成に加え、福井県の経済界と連携し、地域経済、まちづくりの人材育成の場を新たに設置し、福井県のビジネスリーダーを育て、経済活性化の礎を築くと同時に、若い世代の人口流出の歯止めに寄与する。</p> <p>少子化の影響で今後課題が山積する地域に対して、地域の大学と行政との連携がいかに機能するべきか。また、福井県と連携し新たに運用される奨学金制度など、今後の地方のひとづくりのあり方を学ぶ。</p>
成果・所感	<p>少子高齢化の影響で、今後、福井県ではどのような問題が起こるかを、行政と大学が連携・調査・研究し、しっかり共有している。そうした意味で、地域の大学はその地域の研究機関としての役割をしっかりと果たしている。</p> <p>そうした中、以下の大きな課題解決を大学の目標にも掲げられた。</p> <p>(1) 地域経済（観光・伝統産業）の担い手不足</p> <p>(2) 保育人材の不足</p> <p>(2) については、保育人材を養成する4年生大学として福井県唯一の学科「子ども教育学科」を設置し、保育士資格・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状をトリプル取得できる仕組みをつくる。</p> <p>また、福井県と連携し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者・教育者をめざす学生の授業料を減免 ・自宅外通学生への家賃補助制度 ・保幼小トリプルライセンス取得報奨金制度 <p>を設置し、学びやすく、選びやすい仕組みも設置。</p> <p>結果、県外からの入学者も増えていると同時に、就職先に福井県内を</p>

選ぶ学生も増えている。

そこで、新たに設置される学部、ビジネスコミュニケーション学部であるが、福井県内には多くのものづくりの企業がたくさんあるが、担い手がいず事業継承ができないと予想される企業も多いのが実状だ。また、強い競争力ある地域経済を維持・促進するためには、地域が丸になり、産学挙げて、人材の育成をする必要がある。その中核となるのが、新たな学部である。

2部の仁愛大学、地元企業、商工会議所、先進的な人材育成に取り組んで来た東洋大学によるパネルディスカッションは、実に、有意義であった。仁愛大学が、過去・現在・未来の福井経済を分析し、企業と商工団体からは現在の福井経済が駆け込んでいる課題を投げかけ、これからの具体的な人材育成について意見交換をするというものであった。時々、市議会で行政による施策の経済効果などの説明が、あまりにも曖昧で、その根拠などに疑問を感じる場合はあるが、やはり、大学など研究機関によるデータや分析、予想は説得力があり、話し合われる課題や課題解決に向けた方法なども一定の説得力がある。

そうした意味で、地域の大学は、人材育成はもちろん、地域のシンクタンクとして役割が改めて大きい。

いなべ市も、大学誘致とまではいかななくても、行政・経済界・大学などの連携を強化し、将来を見据えた、政策展開をしていくべきと強く思った。

資料別添付

支 出 伝 票

使 途 項 目	研 修 費 費	整 理 番 号	4
支 出 金 額	23,220 円		
支 出 年 月 日	R7年9月14日		
使 途 内 容	教育講演会「よりよくの追求」 旅費		
領収書・その他証拠書類 <input checked="" type="checkbox"/> 裏面添付			
9/14 桑名 - 今代田区 往復 23,220円			
支 出 先	東海旅客鉄道株式会社、東日本旅客鉄道株式会社		
按 分 率 等			
備 考 欄			

視察研修旅費明細書

会 派 名	秀真の和	代表者印	
氏 名	篠原史紀	経理責任者	
視 察 日	R7年9月14日	使途項目	
視 察 内 容	教育講演会「よりよくの追求」	整理番号	4
視 察 先	千代田区日比谷図書文化館		

月日	出発地	到着地	宿泊地	電車賃		宿泊料		合 計
				路程	額	夜数	額	
R7年 9月14日	桑名市	千代田区		桑名～新橋	11,720			11,720
R7年 9月14日	千代田区	桑名市		新橋～桑名	11,500			11,500
計					23,220			23,220

交通費	23,220 円
宿泊費	円
合 計	23,220 円

視察研修報告書

令和7年9月15日

日 時	令和7年9月14日11:00~16:30
氏 名	篠原史紀
視察名	教育講演会「よりよくの追求」
視察先	千代田区日比谷図書文化館
説明者	一般社団法人ジェイス代表理事 武田信子氏 ほか
目的・内容	教育やこどもたちの育ちの場の在り方、キャリア教育などを考える講演会等を開催している、子育て世代や若者による団体「ドリームロケットプロジェクト」が主催する、教育のあり方を考える講演会。世界約40カ国の養育環境を視察し、日本のこどもたち、教育現場でのウェルビーイングのあり方について、様々な提言をする、武田信子氏などが、今後の日本の教育やキャリア教育のあり方に関して、講演や意見交換を行った。
成果・所感	<p>(1) 若い世代のキャリア感 最先端なロケット関連事業を展開する株式会社植松電機。社員(5年目)の中道春菜さんより、自身の就職活動に関して講演を行った。株式会社植松電機への就職のきっかけは、図書館で出会った1冊の本。株式会社植松電機、代表取締役・植松勉氏の著作であった。進路に迷っていた中道さんは、高校2年生の時に、たまたま名古屋で行われた植松氏の教育やキャリアに関する講演会へ行き、共感。植松氏に直談判し、最終的に同社へ就職することとなった。キザニアなど、新しく多様なキャリア教育のあり方が問われる時代に、教育環境のあり方、そのものを見直すことが、こどもたちのウェルビーイングに繋がる。時代の変化に合わせた教育改革の必要性を痛感した。</p> <p>(2) 教育は誰のものか。 武田信子氏は、学びだけでなく「遊び」「他者とのリアルな関わり」「地域・コミュニティとの接続」が子どもの発達には不可欠だと主張。ネットや偏差値受験中心の教育では、こうした「人間らしい育ち」が失われがちだ、という警鐘を鳴らす。さらに、「子どもひとりに100人の赤ちゃんを育てるような地域(=“みんなで育てる社</p>

会”）」のような発想が必要だとも述べ、子育てや教育を個人（親・家庭）だけの責任に帰さず、社会全体で支える仕組みの重要性を訴える。

いなべ市のような地方自治体が教育政策や子育て支援を検討する際、以下のような観点が参考になる。

- ・教育の成果や受験偏差値だけに偏らず、子どもの「幸せ」「安心」「多様な成長の機会」に重きをおいた施策。
- ・教師の養成・研修だけでなく、現職教師のケア・サポート・働きやすさへの配慮。
- ・地域コミュニティ・地域住民を巻き込んだ子育て支援の仕組み作り。
- ・教育虐待や過剰な競争の抑制、子どもの権利を守る視点を行政や学校、保護者に浸透させるための啓発・支援。

（3）新しい教育の在り方

ドルトン東京学園中等部・高等部校長の安居長敏氏による、こどもの主体性を重視する教育メソッド「ドルトンプラン」に関する講演。

ドルトン東京学園は、

- ・自律的学習（アサインメント）
- ・探究（ラボラトリー）
- ・対話と協働
- ・自己管理と責任
- ・教員＝学びの伴走者

という特徴的な教育モデル「ドルトンプラン」を通じて、こどもの主体性を重視し“自分はどう学び、どう生きるか”を問い続けられる学習者を育てる。ドルトンプランは、単なる学習方法ではなく、“生き方の教育”と言われ、特に以下の力を伸ばすとされています。

- ・自己調整力
- ・自己管理能力（タイムマネジメント）
- ・問題解決力
- ・探究心・創造性
- ・コミュニケーション・協働力
- ・メタ認知（振り返り）

いなべ市の新たな教育に活かせる観点である。

資料別添付

支 出 伝 票

使 途 項 目	研 修 費 費	整 理 番 号	5
支 出 金 額	5,500 円		
支 出 年 月 日	R7年10月10日		
使 途 内 容	地方議員ができる生活困窮者対策 参加費		
領収書・その他証拠書類 <input checked="" type="checkbox"/> 裏面添付			
支 出 先	一般社団法人 マニフェスト研究会		
按 分 率 等			
備 考 欄			

視察研修報告書

令和7年10月25日

日 時	令和7年10月23日19:00~21:00
氏 名	篠原史紀
視察名	地方議員ができる生活困窮者対策
視察先	オンライン
説明者	明治大学専門職大学院ガバナンス研究科専任教授 大山典宏氏 足立区議会議員 小椋修平氏
目的・内容	地方議員が地域で活動する中で、住民からの生活相談を受ける機会は少なくない。特に生活に困窮する方々からの相談には、迅速かつ的確な対応が求められる。その中でも「生活保護」に関しては、制度の複雑さやケースごとの事情により判断や支援の仕方に悩むことも多い。今回のセミナーでは、生活保護制度に焦点を当て、議員としてどのような働きかけができるのかを考える。制度の基礎的な知識に加え、現場での対応事例などを共有しながら議員の立場でどう取組むべきかを深掘りする。
成果・所感	今後、生活保護の申請者が増えることが予想される中、制度の詳細と現状について、的確に把握する必要があると考え、受講することにした。 生活保護を受給するメリット、デメリット。申請を考える際の誤解などが明確になった。 市議会議員は、困っている市民の相談にのるゲートキーパーでなければいけない。同時に、不正受給を防ぐための門番としての役割も念頭にしなければならない。 貧困支援の場は、時には、潜在的な差別と偏見の意識のため、感情を揺さぶれかねない状況になりかねないので、理性的であるためには、しっかり、データを押さえ、制度を理解する必要がある。 足立区議会議員 小椋修平氏による具体的な対応事例は、とても参考になった。

資料別添付

使途項目別一覧表

使途項目名	広報 費
--------------	-------------

年月日	支出内容	支出額	備考	整理番号
2025/10/24	会派ニュース 印刷・新聞折り込み費用	101,117 円		1
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
		円		
計		101,117 円		

支 出 伝 票

使 途 項 目	広 報 費	整 理 番 号	1
支 出 金 額	101,117 円 1		
支 出 年 月 日	R7年8月5日		
使 途 内 容	会派ニュース 印刷・新聞折り込み 費用		
領収書・その他証拠書類 <input checked="" type="checkbox"/> 裏面添付 <div style="margin-left: 40px;"> 会派ニュース 印刷 7,900円 × 8,150円 = 64,385円 新聞折り込み 3,8 × 8,100円 = 27,540円 消費税 9,192円 合計 101,117円 </div>			
支 出 先	共栄堂印刷株式会社		
按 分 率 等			
備 考 欄			